

病棟看護師と外来看護師による退院後訪問 ～病棟看護師の視点から～  
島本由希子、山本美帆、常盤比呂子、家中ふみ代、松浦幸子、白石裕子、白石吉彦

<目的>

病棟・外来看護師が自宅へ訪問し、退院後の生活がうまく行われているかどうかを判断し外来受診につなげる。必要であれば訪問看護や往診へつなげていく。また、看護師が病院内に留まらず、実際の住環境や家族背景などを知るきっかけとし、患者の生活とニーズに応じた、地域に密着した看護を提供する。

<方法>

退院後2週間以内に外来看護師と共に自宅へ訪問する

<結果>

それぞれ在宅退院後の病状、内服管理、食事摂取の状況などを家族や本人と直接話をすることで把握し、生活上の工夫や、病院とは違う環境作りをされていることも見る事が出来た。さらに、患者や家族が気になり心配していることを聞ける場となり、その内容を診察・治療につなげることができた。

<結論>

今後も退院後訪問を継続し、患者が在宅での生活を安心して送ることができるようサポートしていく必要がある。病棟看護師は、入院中の関わりや、退院に向けての準備について、退院後訪問時の状態から評価し、ケアにつなげていく。さらに、患者の地域での生活を視野に、病棟と地域の連携をスムーズにおこなっていきたい。